

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社 マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2丁目11-105		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年12月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>緑豊富な環境で、その人らしく、その人の望む生活が出来るような支援を心がけている</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所の理念は「笑顔のある明るい施設」であり、利用者はそれぞれに生活を楽しんでいることがうかがえる。ウッドデッキや庭で外気に当たる、金魚の世話をする、若い職員に料理を指導したり漬物をつける、絵画、貼り絵など思い思いに伸び伸びと暮らしている。管理者は職員の自主性を尊重しており、旅行、イベントの企画も職員のアイデアや提案を積極的に取り入れ、意欲を促して運営している。看取りは行わないという方針であったが、環境変化に対応し、家族の希望にも応じ看取りを行うこととした。そのために重度化・看取りに関する指針、医療連携、看護師の配置など体制をつくり、介護度の高い人の為に風呂場に昇降機を設置するなど生活面でも支援体制を整えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所へ張り出し職員は常に心がけ支援を行っている	法人は五つの基本理念を掲げており、事業所は『笑顔のある明るい施設』を理念として定めている。会議等の機会に理念を示し、原点を見つめ直すことにしている。	
2	(2)	千葉県千葉市緑区誉田町2丁目11-105 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所への方々へ挨拶をする 大きい行事には参加の声掛けをしている	玄関前に花を植えたり、外出時には挨拶を交わすなど地域とつながりを持つきっかけを大切にしている。運営推進会議の参加者から地域の情報を得ることもある。今後は町会に加入することも検討している。	町会に加入して、地域と情報交換したいと考えている。町会を通して地域との関係性を深めることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時見学対応し行事に参加していただくことによりかかわりを作りその都度説明をしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	安心ケアセンター・民生委員の方参加の元、ご家族・入居者と意見交換の場として活用している	運営推進会議は隔月開催しており、地域包括支援センター職員、民生委員などが出席しており、地域の情報をもらっている。また、看護師からの感染症対策の話をするなど、会議の内容も工夫している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	緑区保健センター・安心ケアセンターの方が出向いた時には話をし協力関係を築くようにしている	管理者は自ら行政の各担当課に出向き、介護申請、利用者についての個別相談、状況報告を行い、常に協力関係が築けるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などに参加し防止に努めている	身体、言葉による拘束を重要な研修テーマとし取り組んでいる。家族にも方針を説明し、理解を求めている。玄関は道路事情を考慮して暗証番号を入力する方式にしているが、職員の目が届くりビングからは自由に入出入りできる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し防止に努めている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は権利擁護について学び知識を持ち活用できるよう努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解・納得を得ている 改定があった際は文章でお知らせ・家族会で説明し理解・納得を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や来所の際など意見を聞くことが出来ている	家族からは、事業所の運営について要望、意見を聞きとるようにしている。時間をかけ、具体的な対応を検討し反映に努めている。年2回の家族会も貴重な情報交流の機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フリヤ会議や話し合いで意見交換をしている その他、管理者が対応し反映できるように努めている	管理者は職員が発言しやすい会議の雰囲気を作るように努め、担当者にしか分らない運営に関する要望、提案を聞くように心がけている。また管理者は、職員と個別対話の場を設け、意見や要望を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談や話し合いをおこない各自が向上心を持って働けるような職場作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修に参加し学んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県認知症連絡会に入会し研修会等に参加し同業者の方々と交流を図り質の向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴しニーズを把握し信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に来所して頂ける雰囲気を作りニーズの把握・信頼関係の構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々、情報収集し柔軟性を持ち対応できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩ということを忘れず敬い・共感できる関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に日常の様子を報告したり連絡を取り気になることなど話を聞きご本人を支援していく方向性を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話・手紙などの連絡の協力・他要望に沿えるよう努めている	入居前の自宅周辺での買物など、馴染みの場所へ出かけている。また、知人の来訪も歓迎している。家族との外出など、これまでの関係性継続の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その場の状況に応じ各入居者様を理解したうえで声掛け・介入しスムーズに関わりが持てるよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大事にし相談しやすい関係を継続できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	細やかなアセスメントをし日々の生活の中に意向を繁栄できるように検討している	意思疎通が困難な利用者に対しては、本人の生活歴を考慮したり、家族が訪問した際に意向を聞くようにしている。新たに知り得たことは月1回のフロア会議で報告したり、日々の申し送りノートを活用して情報を共有している。介護計画書の更新のつどアセスメントを書き換えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族様より話を伺い職員全員が把握しサービスに活かせるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態など日々の変化に気付き状態の把握が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	要望に沿えるよう他職種と連携・情報の共有し会議など場を設定し介護計画を作成している	現場の職員からだけでなく、家族や看護師からも幅広く情報を収集し、本人の意向の把握に努めている。管理者(介護支援専門員)とサブフロア長と話し合い、現状に沿った介護計画書を作成、見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記入し申し送り・連絡ノートで情報を共有し必要に応じて見直しの実施を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、情報収集を行いニーズに対応柔軟な支援サービスが出来るよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員の方に参加してもらい地域の情報を提供してもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と密な連絡を取り相談・医療を受けられるようになっている	重度の利用者でも適切に受診できるよう月2回ホームのかかりつけ医の往診がある。かかりつけ医は利用者が自由に選べるよう配慮しており、通院についても家族対応かホーム対応かは入居時に希望を聞くようになっている。知り得た医療情報は本部の看護師と情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	密な連絡を取り情報交換・共有・相談を行い日々の健康管理・医療活用の支援に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行き安心してもらうと共に医療側から情報収集しご家族・職員と情報交換をし早期退院に向け努めます		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・看護師・ご家族・職員が連携をとり合い方針を共有し支援に努めている	利用者が終末期を迎えた時には、家族と話し合い往診の頻度を多くしている。利用者や家族の看取りに対する意向は入居時から変化しうるものであるため、昨年から書面での確認をすることとした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故対応の講習会に参加し学んだことの希共有を図っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い入居者の安全を確保できるよう努めている	今年は夜間の災害を想定した避難訓練を行った。次回は自然災害を想定した避難訓練を予定しているが、計画的に取り組むまでには至っておらず、地域住民との協力体制についてはまだ具体化していない。非常時のための水20を2箱ほど用意している。	地震や火災などを想定した避難訓練を定期的に継続していくことが望まれる。また、地域住民の協力体制構築に向けた工夫が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の人格を尊重しプライバシーを守りながら声掛けや対応し個人情報の取り扱いに注意をはらい努めている	個本部では個人情報の取り扱い、接遇などの研修を実施しており、職員が参加して学んでいる。職員は、言葉遣いなどにも配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者と時間を作り何気ない会話の中で思いや希望を聞き取り望まれている支援が出来るよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせ希望に沿った支援が出来るよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に沿えるよう また 声掛け・お手伝いをしておしゃれが出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2~3回 入居者の希望に合った献立を実施し入居者参加で行っている	食材は配達してもらっているが、時には配達を止めて、利用者と一緒に買い物に行き、リクエストのメニューに応えるなど、食事が楽しくなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録を残し健康管理支援につなげている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状況に合わせ声掛け・一部介助にて行っている 月2回の訪問歯科により口腔衛生管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活かしリズムをつかみ自立支援に向け努めている	利用者の排泄リズムを掴み、タイミングを見てトイレ誘導をし、自立に向けて支援している。おむつを使用していた人が、職員の支援により、リハビリパンツで過ごせるようになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給・運動・食事などで便秘予防・改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望に応じられるよう心がけ入居者に合わせたペースで支援することを努めている	週3回は入浴してもらえるよう支援している。利用者が入浴をしたくないという時は無理強いせず、翌日に変更するなど、臨機応変に対応している。昇降機やリフトを用意して重度化にも対応できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の習慣・体調に応じて静養して頂けるようソファーなども用意して対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作り一目で解るようにしている 配薬は職員が行っている 介助が必要な方には服薬介助を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しい生活を送れるよう毎日のレク・体操をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時に散歩に行ったり、草花の手入れ・買い物など戸外に出られる環境作りに努めている	毎月ドライブと外食を楽しんでいる。また、ホームの敷地が広く、リビングから自由に入りできるので、草花の手入れをする利用者もいるなど、外気に当たる機会をつくるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の希望で外出する際は職員同行にて買い物に行く。その際、その方の力に応じてお金の所持・使用している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望に合わせてご家族協力の元対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアに季節ごとに合ったレイアウトをし展示スペースを用意している	絵が趣味の利用者がおり、ホームでは展示スペースを設けて作品を飾っており、利用者の喜びにもつながっていると思われる。室温も適切で居心地のよさそうな空間には金魚の水槽があり、目を楽しませてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを置きくつろげるようにしている。デッキに椅子を置き外気に触れ談省スペースも用意している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より馴染のある家具など使用していたものを持ってきてご家族と相談しレイアウトしている	入居時になるべく馴染みの物を持ってきてもらうように利用者やその家族に伝えている。仏壇やテレビなど自由に持ち込まれており、それぞれ自分らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLを職員が把握し・共有し安全かつ自立した生活を送れるよう支援に努めている		